人口推移と雑感

私どもの東海村は，昭和30年に旧村松村と，旧石神村が合併して誕生し，翌年四月，日本原子力研究所の敷地が決定して，原子力の村として歩みはじめました。

以来，原子力研究所をはじめとして，原子燃料公社(現在の動力炉・核燃料開発事業団)，日本原子力発電所など関係施設が建設され，現在13の事業所がそれぞれ原子力の研究開発，発電，製造等に活動しています。

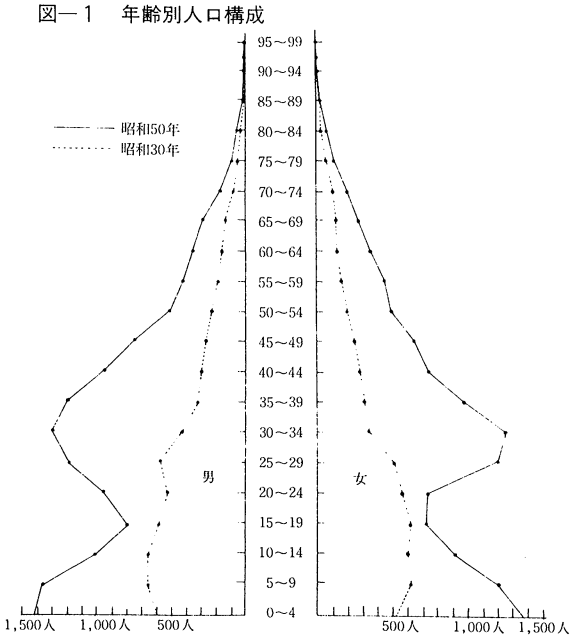
今思うと，その当時，今日の東海村の姿を予想した人が果して何人あったでしょうか。この20数年の間に，村の姿は大きく変わりました。

その一つに，人口の急増があります。30年の国勢調査時は世帯数1,880，人口11,583人でしたが，31年の８月に原研の施設工事が着工されてから，工事関係者の転入がはじまり，国勢調査ごとに増加(表―１参照)し，現在に至っています。

表―１　(単位：人)

年	35	40	45	50	55
世帯増加数	677	978	923	1,812	2,047
人口増加数	2,395	2,587	2,395	6,191	4,046
人口総数	13,978	16,565	18,960	25,151	29,197

図―１　年齢別人口構成



年齢別人口も大きく変化しており，30年は純農村型であったが，50年には中年層とその子供人口の増加が目立っています(図―１)。

また，社会増及び自然増に対し，農業人口が急激に減少していますが，これは村内の企業や水戸，日立など周辺の企業へ通勤する者が多くなったためで，さらに，(表―２)を参照していただけばおわかりのように，専業者が減少し，兼業者が増えています。

表―２　(単位：人)

年		35	40	45	50	55
農業だけの人	計	3,505	2,901	2,572	2,007	1,613
	男	1,454	1,050	900	652	595
	女	2,051	1,851	1,672	1,355	1,018
農業と兼業	計	523	981	1,475	1,510	1,480
	男	446	756	1,078	1,104	1,272
	女	77	225	397	406	308

人口増加の原因を考えてみますと，31年の原研施設着工からはじまって，40年の中頃までが原子力関係によるもの，それ以後は水戸，日立など周辺企業へ通勤するのに便利であるという地理的条件の良さによるベットタウン化の２つが考えられます。

人口が増えることは，統計調査についてもいろいろと問題があるものだとつくづく考えさせられたのが，国勢調査です。

先輩の話によると，40，45年の国勢調査では何も問題はなかったと聞いていますが，50年，55年と自分で２回担当してみて，旧集落では顔見知りの調査員が好感をもたれ，新しい団地などでは逆に嫌われることを感じました。また，マスコミによる正しい理解をしない人，自分本位の判断や一方的な考えで調査員の話しも聞かないで拒否したり，調査員に渡すのがいやだから直接に持参する人，郵便で送る人などさまざまでした。

今後の調査は，年々むづかしくなるように思われます。

なお，当村の統計事務研究会について，調査員は農業基本調査員を主に38名登録しており，統計事務研究会が45年に発足し，48年に調査員確保対策などのため村統計条例を制定，隔年により統計大会及び研修会を実施して現在に至っております。

(東海村企画課統計係長・須藤重雄)